

## 統計研修講義計画書

研修課程	人口統計による地域分析	講義科目	地域分析と地域人口推計の基礎	講義時間	5コマ
講師	大江 守之 放送大学客員教授				

※1コマ70分

### 講義のねらい

本格的な人口減少時代に入り、都道府県や市町村はそれぞれの置かれた状況に即して、「緩和と適応」を模索するという課題に直面している。本講義はその一助になることを目的とする。多くの自治体で人口減少は避けられないものの、それがどのようなテンポで進み、一方で高齢人口はどのように増加するのかを正確に見通し、変化に「適応」するためには、地域人口の変化のメカニズムを知り、人口推計の方法を理解することが必要である。また、出生・死亡・移動のパラメータをどのように動かすとどのように推計結果が変化するかを演習で体得し、「緩和」の手段と効果を理解するための基礎を学ぶ。

### 指導項目と内容

指導項目	内 容
1. 地域人口変化のメカニズムの理解	出生、死亡、移動の3要素で地域人口が変化することを学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域人口推計においてもキーとなるコーホート変化率の求め方とそのグラフ形状の解釈</li> <li>・コーホート変化率は純移動率と生残率に分解でき、高齢期における死亡率の低下による生残率の上昇が続いてきたこと、また将来もそれは続き、一層の高齢人口の増加に結びつくことへの理解。</li> <li>・出生の測度である合計特殊出生率（TFR）、純再生産率、人口置換水準の求め方と、TFRの代替測度であるChild-Woman Ratioとの関係</li> </ul>
2. 地域人口推計の方法	コーホート変化率法を講師が提供するエクセルで作成した演習を通して理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・基準人口の作成（不詳人口の扱い）</li> <li>・コーホート変化率とコーホート要因法の関係</li> <li>・生残率の変化の組み込み方とその影響</li> <li>・Child-Woman Ratioの変化の組み込み方とその影響</li> <li>・人口ピラミッドの作成</li> </ul>

講義形態 指導方法	講義、演習
受講に必要な 基礎知識等	エクセルの操作